

関東ふれあいの道を歩く (8) 神奈川 (⑧鷹取山・里のみち)

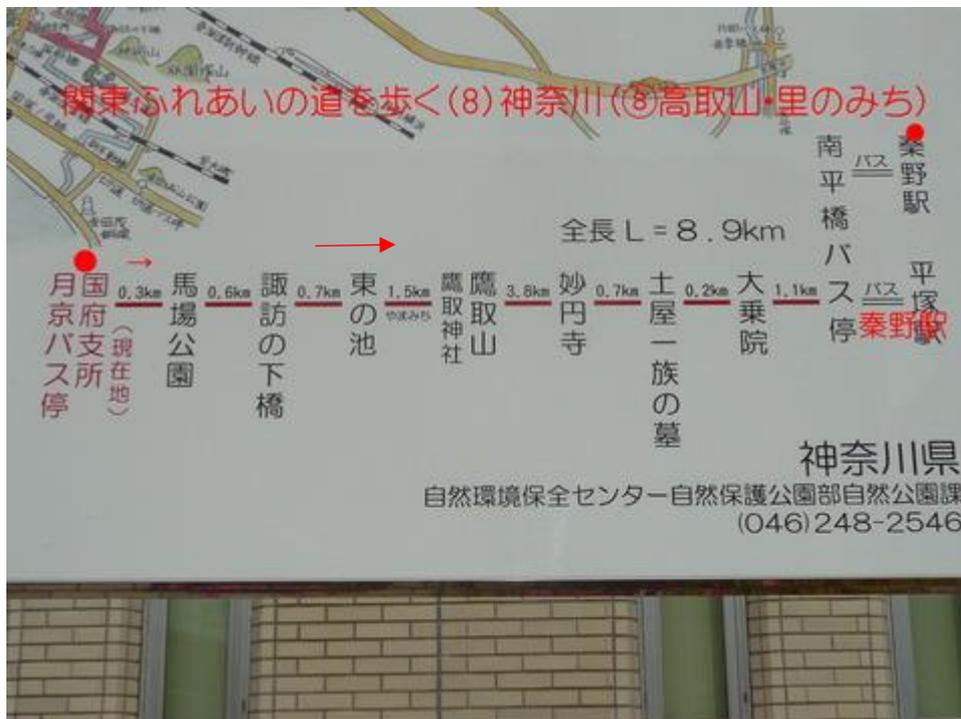
2019年7月22日池内 淑皓

2019年5月12日(日) 晴れ、午前中に「⑦大磯・高麗山のみち」を歩き終える。ゴール近くの吉田茂邸を見学方々休憩し、ここから一転、湘南の海に背を向けて北に道を辿り、鷹取山を越えて秦野盆地に下るコースを歩いた。今回から北へ向かい、関東各県をぐるりと回り、千葉⑩九十九里浜まで海を見る事はない。



(首都圏自然歩道連絡協議会)

月京バス停から高取山 (219m)、土屋城址、秦野盆地までの概念図



月京バス停→鷹取山→土屋一族の墓→秦野駅 行程図



⑦ゴールの大磯城山公園前バス停際にある関東ふれあいの道案内板と道標。
案内板と道標は生垣の中にあるから、間もなく雑草が繁って、見えなくなるだろう



「吉田茂邸内門」 別名兜門と言われる。昭和 29 年サンフランシスコ講和条約を記念して建てられた。また講和条約門ともいわれる、屋根は檜皮葺。



「吉田茂像」 邸内公園の海に面した高台に、米国サンフランシスコに向かって立っている



「月京バス停」吉田邸に背を向けて北に道を辿る。2km、20分ほどの道法。
ここから最終ゴールの千葉県「㊤九十九里浜の砂をふみしめて歩くみち」まで海はない。



月京バス停から400m程戻ると、馬場交差点に出るから、この写真では右折して北に向かう



やがて不動川が流れてくるから、川沿いに上流に向けて歩きます



新幹線のガードが見えると、傍らの道標に従って左折して、畑の中を西へ。



鷹取山全体が見えた



「東の池」江戸時代に開発された灌漑用溜池。
今でも近隣の田に水を配る。池内に弁天様を祀る、ご神体は木造の蛇。



東の池を過ぎ県道を越えると、無人野菜販売所のある角を左折し、山道に入る



高速道路を潜ると登山道となり、常緑広葉樹が繁茂する中、鷹取神社の神域に入る。



程なく石の鳥居前に着くと、しめ縄が張られ、神聖な領域に入った事を知る。ここに石造りの里程標があった。



湘南の暖かい気流が暖帯林を育てる。神奈川県環境保全地域に指定され、タブ、スダジイ、ヤブ椿、カゴノキ等の広葉樹が繁茂している



「鷹取山頂上と鷹取神社」(218.7m)



神社の傍らには、樹齢400年のタブの木が茂り、巨木群の中に道がある



案内板に「霧降り溪谷のみち」と表示のある尾根から、道はゴルフ場のフェンスに沿って歩くようになる。



給水塔前で右に折れ、緩やかに下りながら歩くと、見晴しの良い休憩場所に出る、秦野盆地から大山、丹沢の山並みがよく見える、一息入れるには最高の場所となっている、ベンチもある。



⑧のタイトル通り、里のみちが秦野盆地に向けて、緩やかに下ってゆく。



畑の畦道には、道標がしっかり案内してくれるから、大丈夫



今キャベツの苗を植え、玉葱はそろそろ収穫時期を迎える頃だ。



六月は麦秋、収穫の時期は近い



「妙円寺」天台宗 岩屋弁天霊場。土屋の銭洗い弁天として有名



「土屋城址」鎌倉時代、源頼朝御家人の一人、「土屋三郎宗遠」の居城跡
頼朝旗揚げの時から付き従う御家人。平家追討にも参戦し、武功を挙げる。



「土屋一族の墓」

室町時代の応永 23 年（1416）上杉禅秀の乱で、禅秀に味方して敗れ、領地を失う。

子孫達はそれぞれ北条、足利、武田、徳川に仕え家系を保った。



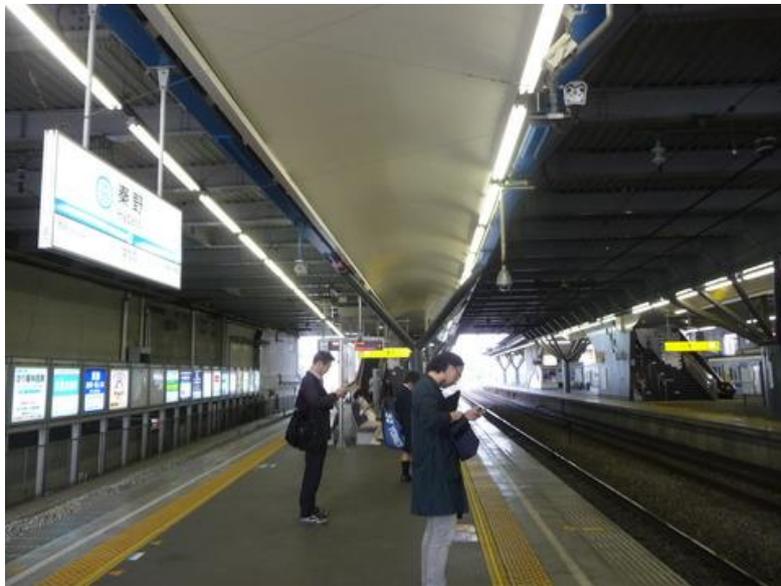
「大乘院」天台宗、本尊：阿弥陀如来。土屋城社の高台にある。
平安末期土屋氏が堂塔を再建したが、太平洋戦争で焼失した。



「熊野神社」大乘院の先にある、宗遠が平家追討軍として壇の浦の戦いに
勝利し、凱旋途中紀州熊野権現に参詣し、分霊を持ち帰ったと伝える。



⑧鷹取山・里のみちは、ここ南平橋バス停がゴールである
平塚--秦野バスラインと、神奈川大からのバスもあるから便利なバス停。



ゴール駅は小田急秦野駅

吉田邸 (11:10) → 月京バス停 (11:40) → 東の池 (12:30 昼) → 鷹取山 (13:15) →
妙円寺 (15:00) → 土屋氏の墓 (15:20) → 南平橋 (15:45-16:02) 秦野駅 (16:20)
21,000 歩 15.3 km であった この項完

関東ふれあいの道を歩く (9) 神奈川 (9) 弘法大師と桜のみち) に続く